
Message from the President

委員会 2 年目の取り組み

Our 2nd Year Projects

日本質量分析学会 会長・委員長 和田芳直
Yoshinao WADA, President/Chair of the MSSJ

日本質量分析学会は、約 30 名の委員が構成する委員会の議決に従って、委員長が庶務、会計担当委員とともに学会の運営を行っています。委員は 1 期 2 年の年度区切り任期で、2 期を超えて委員となることはできません。慣例により委員長が会長として選ばれており、その任期は総会から 2 年後の総会までとなっています。私が会長・委員長の任にあたって 3 年余りが経ちました。この間、ウェブ選挙実施や会計健全化対策などの会務のほか、将来への布石や外部機関・団体との交流への取り組みを行いました。それらの延長線上に 2012 年に京都で開催される第 19 回国際質量分析会議 (IMSC-19) があります。この IMSC-19 は、わが国約 84 万人の科学者を代表する内閣府の機関である日本学術会議 (Science Council of Japan) の共同主催となるのが今年 3 月に内定しました。日本学術会議の共同主催には毎年約 7 件の国際会議が採択されますが、共同主催によって会議の運営、例えば、会場費や招へいなどの補助を得られるだけでなく、IMSC-19 は国家事業として位置づけられたと考えることもできます。

IMSC-19 を成功させるにはホストである本学会会員のみなさまのご支援が必要であることは言うまでもありませんが、IMSC-19 に向けて学会が行おうとしている国内および国際的な取り組みについて説明いたします。

すでにお知らせしていますとおり、今年の第 58 回質量分析総合討論会に、第 1 回アジア・オセアニア質量分析会議 (1st Asian & Oceanic MS Conference; AOMSC) を併催します。具体的には、総合討論会の会期を通じて 1 会場を AOMSC として企画セッションを設け、英語による講演・討議を進めます。本年 4 月 1 日現在で、アジア・オセアニアから約 90 名が参加登録し、また、中国、韓国、台湾、インド、香港、オーストラリア/ニュージーランド 6 学会の会長の参加も決まっていますので、名実ともに充実した会議になると期待しています。これら各国学会はいずれも国際組織 International Mass Spectrometry Foundation (IMSF) の加盟団体 (affiliate といいます) です。IMSF に登録された各国学会の状況を見ますと、特にアジアにおいて会員数の増加が著しく、現在では北米、欧州と並んでアジア・オセアニアが三極構造を形成していますので、AOMSC の設立と開催はこの地域での質量分析の発展の象徴として意義が高いと思います。幸い、日本質量分析学会のこの企画は、日本学術振興会の機動的国際交流事業 (アジア機動交流) として補助を受けることになりました。今回の学術集会の参加登録においては、総合討論会と AOMSC の区分はありませんし、ポスターセッションは国内外からの発表を区別せずに行います。したがって、AOMSC への海外からの参加者にもその内容を理解してもらえるよう、日本人発表者のポスターにおける英語比率を大幅に増やしました。これは IMSC に向けて、会員が成果発表の際の国際性を高めるための取り組みでもあります。

IMSC と同じ 2012 年の米国質量分析学会 ASMS 年会はカナダのバンクーバーで開催されますが、この ASMS 年會を環太平洋會議 pacific rim MS 會議として開催したいとの申し入れが ASMS の G. Glish 会長よりありました。IMSC と同じ年に開かれる大きな学術集會ですが、わが国やアジア・オセアニア地区の学術活動を ASMS 年會において重点的に発表できる機会として意義深いと判断し、プログラム編成を中心に ASMS と協力して進めることにしました。これまで IMSC と ASMS 年會は互いに関連することなく開催されてきましたが、両者をうまく調整するアイデアが必要です。

次に国内企画です。来年の総合討論会は開催時期を秋に移しますが、日本医用マスペクトル学会年會と会場を同一にし、会期を一部重ねることが決まっています。両学会の会員にとって有意義な相乗効果が得られるよう、会場使用や企画について、総合討論会実行委員長と日本医用マスペクトル学会年會会長の間で調整が続けられています。質量分析の出口 (応用) として向かうべき方向としての医学・医療はこれからますます発展しますので、この分野での技術・装置開発、応用展開、データベース構築などについて両学会が協力し、その里程標として IMSC が位置づけられることを期待しています。今後は、今回の経験を活かしながら質量分析にかかわる他組織・団体と協調・協力を進めようと考えています。以上が IMSC を見据えての行動計画です。

次に地域活動についてですが、関東および関西地区は古くから談話会を開催し、いずれも100回以上を数えています。北海道でも地域の集まりが地道に続けられてきましたが、今年度から北海道談話会が発足しました。一方、中部地区についてはテーマを絞った特色ある活動が企画されています。

最後に、会員の皆様にご心配をおかけしております学会会計状況とその見通しについて説明します。総会資料にご案内のとおり平成21年度は約740万円の赤字予算でしたが、その赤字幅は大幅に縮小しました。主たる要因は大阪における第57回総合討論会の収支が思いの外よかったことで、それは、同実行委員会による卓越した運営や予想を超える参加者、そして企業からのご支援によるものです。平成22年度も赤字予算となる予定ですが、昨年度後半に実施しました委員会等への旅費規程の改正や主催行事における飲食への補助の見直しなどによって経費削減を進めます。これらは学会活動やその意欲の低下にはつながらないよう配慮した会計健全化策です。一方、学会会計にとって会費収入は大きな比重を占めます。会費値上げをせずに会費収入を増やすには、過去数年間横這い状態の会員数を増やすことが必要です。現在の会員数は約1,200名ですが、経費拡大なく運営できる会員数の目標値として1,500を設定しました。今年の総合討論会における会員・非会員参加登録費の差額拡大も目標実現のための一策ですが、若手研究者や学生にとって魅力ある学会として若手会員数を増やすことが、目標到達とそれを維持する最良のスキームであると考えています。そのためには、学術集会や談話会の内容を充実するほか、学生が自ら運営にかかわることのできる機会を増やしたいと考えています。

その他、編集委員長を中心に企画されている会誌の改革や、各担当委員を中心に行っている講習会や部会活動についてはここでは触れませんが、これらの会員サービスを充実させつつ質量分析学の発展と質量分析の普及に貢献することで、わが国や世界における日本質量分析学会のプレゼンスを高めたいと考えています。会員のみなさまにおかれましては、これからもご支援のほどをよろしくお願いいたします。